

牛朱別川と切り替え工事

うしゆべつがわ

掲載写真は、旭川のシンボルの旭橋と、その下へ流れ入る牛朱別川である。牛朱別川には、小さな橋が架かっているのが見える。この橋の右岸に、アイヌ語地名表示板が設置されていて、牛朱別川のアイヌ語地名由来が次のように記述されている。

牛朱別川——ウシシペツ(Usis-pet)は、蹄川鹿の蹄がほりに多い川という意味です。アイヌ民族にとって鹿肉は大切な食料の一つであり、蹄といえ鹿の蹄を意味しました。

ただし現在の川筋は、一九三三年の切替工事後のもので、それまではロータリーのあたりを流れ亀吉付近で石狩川に合流していました。

(旭川市教育委員会) 右の説明のように、牛朱別川が現在の

断章 旭川のアイヌ語地名研究

155

高橋 基

ように旭橋の下に流れを変えたのは昭和七年(一九三三年)の切り替え工事によるものである。

掲載地図は、昭和三十四年発行の『旭川市史第二巻』に掲載された、牛朱別川切替図である。この図は、牛朱別川の切替と隣川敷地埋立のタイトルで、ページにわたる詳細な記録中の添付図である。今回は、右の記録の重要部分を抽出して、概要をふま、いこうとする。

牛朱別川は蛇行が激しく、しばしば洪水を起していた。この洪水を防ぎ、また

埋め立て地を市街地として確保することを意図して、切り替え工事が実施された。工事は当時の金額で九十万円を要し、旭川市にとっては、空前の大事業であった。

旭橋と牛朱別川



アイヌ語地名表示板

ウシシペツ 牛朱別川
Usis-pet 川

鹿の蹄の跡がほりと多い川という意味です。アイヌ民族にとって鹿肉は大切な食料の一つであり、蹄といえは鹿の蹄を意味しました。ただし現在の川筋は1932年の切替工事後のもので、それまではロータリーのあたりを流れ亀吉付近で石狩川に合流していました。

旭川市教育委員会



旭の三橋であったが新たに中央橋と緑橋の二

当時は牛朱別川が旭川市と永山村の分界で、旭川市から永山村への橋梁は、永隆・日出新

昭和五年五月二十八日、昭和六年十一月二十三日竣工し、昭和七年一月十三日公用開始した。

旭の三橋であったが新たに中央橋と緑橋の二

旭の三橋であったが新たに中央橋と緑橋の二

旭の三橋であったが新たに中央橋と緑橋の二

アイヌ語地名研究会幹事 毎月第一週号に掲載します